

カザフスタン National Medical Holding 使節団が附属病院を視察

病院総務部総務課

11月5日（火）午前、カザフスタン National Medical Holding 使節団 21 名が日本でのヘルスケアと病院の医療安全管理についての研修及び日本へのメディカルツーリズム協力の可能性をさぐることを目的に本院を視察されました。

はじめにけやきプラザで、五十嵐徹也 附属病院長から歓迎の挨拶があり、秋山稔国際連携推進室副室長から本院の概要について、高梨典子臨床医療管理部看護部長から視察の目的でもあるヘルスケアと医療安全管理について説明がありました。

また、陽子線医学利用研究センターに場所を移し、櫻井英幸陽子線医学利用研究センター長及び熊田博明同センター中性子医学研究開発室長から日本へのメディカルツーリズム協力の可能性として先端的放射線がん治療（陽子線治療）及び次世代がん治療：中性子捕捉療法（BNCT）について説明があり、同センター治療室及び回転ガントリーを視察されました。

使節団からは多くの質問が出され、今後の筑波大学との交流について積極的に推進していくことが話し合われました。



カザフスタン使節団を代表して挨拶される、
Ms Maira Kuzer



リスクマネージメントの説明をする臨床医療管理部・
高梨看護師長、左は、五十嵐附属病院長



陽子線治療室で熊田中性子医学研究開発室長の
説明を聞き入る使節団